

はじめに

本書は、筆者が2017年から2024年までに公表した課報・捜査に関わる論文、ならびに2020年度に博士論文として上梓した論文を再構成したものである。

本書の目的は、国家の秘密裡の情報収集活動としての課報・捜査に共通する統制システムを素描し、ミクロ又はマクロに、そして統治機構との関係で検討することを通じて、私たちの自由という憲法が保障した価値を守る実効的な方法を探ることにある。その探究の試みは未だ途上にあり、本書は筆者の研究の現在地を示したものにすぎないが、読後なにか一つでも示唆を得ていただける書籍となっているのであれば本望である。

筆者の問題意識は、佐藤幸治先生の『憲法 [第三版]』（青林書院・1995）に触れて憲法学研究を志した学部二年次以降、常に「憲法が保障した価値を守るために、法は何かができるのか」ということにある。背景には、「将来は絶対法学を学ぶ」と決意した小学六年次以降、長きにわたって筆者が抱えている、法という権力に対する畏怖と懐疑がある。

本書収載の諸論稿は、非常に多くの先生方に、最早生涯返すことの難しいほど多くの学恩を頂いたことによって執筆された（もちろん本書におけるすべての誤りは筆者の責任である）。「何かができるのか」を問うといいながら、実際の研究プロセスにおいては常に好奇心を優先してしまう悪癖を持った筆者に対して、先生方はいつもあたたかくご指導くださった。すべての先生方のお名前を挙げることは紙幅上叶わないが、ここではとりわけ筆者に多大な影響を与えた数名の先生方への謝辞を付したい。

まず、修士課程及び博士後期課程の両者において筆者の指導教授をお引き受けくださった渡辺康行先生に、深く御礼申し上げる。筆者は修士課程修了後、私事により博士後期課程に進学することが難しかったため、鉄鋼業に就職し、法律とは関係のない仕事をしながら、夜間休日に研究を続けていた。仕事は楽しく充実していたが、就職後2年経っても研究への思いが絶えることのなかった筆者は、書き上げた論文（本書第四部第二章の基礎となる草稿）を、突如渡辺先生に送り付けた。

不躰極まりない弟子の不規則挙動にもかかわらず、渡辺先生は快く拙稿に目を通し、博士後期課程での学究の道筋を拓いてくださった。あの日の先生のご対応がなければ、筆者は今ここにいない。渡辺先生は、常に的確な研究指導をくださるのみならず、好奇心に駆られて猪突猛進する筆者の研究者としての危うさに、誰よりも心を配ってくださっている。いつか頂いた学恩に報いる論文を書きたいと思い、日々精進を重ねているつもりだが、その日は遙か遠い。

次に、曾我部真裕先生に御礼を申し上げる。曾我部先生にはじめてお目にかかったのは2019年の情報法制学会であった。不詳の大学院生である筆者の話を真摯に聴いてくださり、その後も現在まで、研究活動及び学会活動における継続的なご指導をいただいている。

また、研究の面でとりわけ大きな影響を与えていただいているドイツ憲法研究の先達として、故・畑尻剛先生、石村修先生、鈴木秀美先生、小山剛先生、宍戸常寿先生、實原隆志先生、山田哲史先生に厚く御礼申し上げるとともに、大学学部時代の筆者のゼミナールの指導教授であり、一橋大学大学院への進学を助言くださった椎橋隆幸先生、そして一橋大学大学院入学以来長きにわたりお世話になっている只野雅人先生、阪口正二郎先生にも謝意を表したい。

本書に収載された諸論稿の執筆においては、複数の研究助成を受けた（公益財団法人日立財団倉田奨励金、公益財団法人セコム科学技術財団 挑戦的研究助成、JST SICORP（JPMJSC2107）、日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究（JP21K13220、JP23K12397）、挑戦的研究（開拓）（JP22K18255）、基盤研究 B（JP23K24851）、国際共同研究加速基金（海外連携研究）（23KK0003））。またこの間所属した3つの大学（関西学院大学、高知大学、一橋大学）とその同僚にも、深く謝意を申し上げる。とりわけ高知大学の同僚であった野角孝一先生には、ご自身の作品を本書の装画として提供協力いただいた。

そして本書の出版にあたっては、株式会社法律文化社、とりわけ編集部の梶原有美子氏に格別のご高配を賜るとともに、公益財団法人 KDDI 財団の著書出版助成を受けた。両法人の助けなくして、本書が日の目をみることはなかった。深く感謝申し上げます。

最後に、常時不安定で生活能力のない筆者を支えてくれる配偶者の豪、娘の堇をはじめとする家族に感謝を伝えるとともに、筆者が大学教員として就職する直前に没した祖母・久子に本書を献じたい。生涯本を愛した祖母の生前の書

はじめに

架に、粗削りな本書を収めることにする。

2025年2月 立春寒波の関西学院大学神戸三田キャンパスにて

小西 葉子